深い学びのために

学習のポイントの解答例

1 **「聞レ之怒、命(ジテ)斲(ケシム)二其人一。」（一三〇・5）とあるが、桓公がこのようにした理由を、説明してみよう。**

【答】 いかに動物とはいえ、猿の子を捕まえ、その母猿を死に追いやった部下が許せなかったから。

▼ポイント▲ 部下の行為が、母の子に対する愛情を無視した行為であることに注意する。母猿の息が絶えたというところで終わらずに、桓公が部下を免職したという話が続いているところにこの故事の一つのポイントがあろう。「解説」参照。

言葉と表現の解答例

1 **「断腸」という言葉は、現在どのような意味で用いられているか、辞書で調べてみよう。**

【答】 はらわたがちぎれるほどの思い。非常な悲しみのたとえ。

▼ポイント▲ 新聞の見出しに用いられることも多い故事成語だが、生徒にはなかなか馴染みがないかもしれない。辞書で意味を調べた後、漢文の窓②『三国志』を読んで意味を確認するとよいだろう。あるいは『三国志』に見える「断腸」の意味を、前後の文脈から推測させる、という方法を取ることも可能である。

2 **次の語句は、それぞれどのような故事から成ったものか、辞書で調べてみよう。**

(1) **助長**　(2) **推敲**(すいこう)　(3) **完璧**　(4) **矛盾**

【答】 (1) 苗の生長をはやめようとした宋の人が、苗を引き抜いて駄目にしてしまったという故事。（『孟子』）

(2) 詩人の賈島が「僧は推す月下の門」という句を作っていたが、「推す」を「敲く」にすべきか迷っているうちに、韓愈の行列に突き当たってしまった故事。（『唐詩紀事』）

(3) 秦王に奪われそうになった和氏の璧という宝石を、藺相如が機転を利かせて無事に持ち帰った故事。（『史記』）

(4) どんなものでも突き通す矛と、どんなものでも突き通せない盾を売る商人に、二つをぶつけたらどうなるのかと客が聞いたところ、答えられなかった、という故事。（『韓非子』）

▼ポイント▲ 現在通用している意味はそれぞれ次のとおり。(1)助けようとして逆にだめにしてしまうこと。(2)詩や文章を作る際、字句や表現を何度も練り直すこと。(3)物事に全く欠点のないこと。(4)前後のつじつまが合わないこと。また整合・両立しないこと。

もとの故事と現在通用している意味にずれがあることに注意する。

言語活動の解答例

1 「断腸の思い」という表現を用いて小話を作ってみよう。

【答】　苦楽を共にしてきた友達と別れ、いよいよ外国へと旅立つ。次に会えるのは一体いつの日だろう。僕は断腸の思いで教室を後にした。

▼**ポイント▲**　一文で「断腸」の思いを感じている状況を伝えることは、なかなか難しいと考え、小話を作るという活動とした。「言葉と表現」1で現在用いられている「断腸」の意味を確認し、それを踏まえて活動を行う。それぞれの小話ができあがった後、数名でグループを作り、その中で互いの作品を読み合い、「断腸の思い」という表現が効果的に用いられているかを確認する。その場合、苦痛や悲痛を感じるポイントは必ずしも他人とは一致しない、ということには言及しておきたい。また、単に「悲しい・苦しい」と表現する場合と、「断腸の思い」と表現する場合とで、どのようなニュアンスの違いがでるか、ということにまで議論が及ぶと、より理解が深まるだろう。

（宮　利政）